

教科書採択に係る第7回土岐市教育委員会定例会(R1.7.23)議事録

◆【議長：山田教育長】

本議案についての事務局の説明を求めます。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

議第14号について説明いたします。議案集1pをご覧ください。

小中学校用教科用図書については、土岐市教育委員会事務委任等に関する規則第2条第1項第1号の規定により、次のとおり採択するものとする。

令和2年度に使用する小・中学校用教科用図書については、令和元年度教科用図書東濃採択地区協議会において採択した原案どおりのものとするることについて、この場で議決をお願いするものです。

議決の事項は大きく2点です。別冊採択関係資料1/3の2pをご覧ください。この議決書に示されておりますように、まず、来年度から新たに使用する小学校の教科書を東濃採択地区協議会において決定したとおり採択すること、そして来年度に使用する中学校の全教科書を東濃採択地区協議会において決定したとおり今年度と同一の教科書とすることです。

はじめに、今年度使用している中学校用の教科用図書を来年度も継続して使用することの議決について説明します。資料11P、12pをご覧ください。令和元年度の使用教科書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定などにより毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとされ、その期間も同法律施行令15条により決められています。

小学校においては、新たに採択し、採択替えを行います。中学校においては、平成27年度採択、28年度から使用されており、4年間を満了しますので、採択替えを行うのが通例ですが、学習指導要領改訂の関係で、平成30年度検定で新たに合格した教科用図書がありませんでした。よって、文部科学省通知により、平成27年度の採択結果及び4年間の実績をふまえ、今年度と同一の教科書を来年度も採択することとなります。14pはその一覧になります。これらの教科書を来年度も使用することを決定していただくとするものです。なお、現在使用している教科書に不都合や採択に公正を欠くなどの報告及び展示会での著しいご意見はございませんでした。

◆【議長：山田教育長】

まず、中学校の教科書について説明がありましたように、新たに合格した教科書はありませんでしたので、引き続き来年度も現在使用中の発行者の教科書を採択することについて承認をいただくものです。そのことについて質疑や討論がございましたら、よろしく願います。

◆【伊藤教育委員】

これは、いつ採択した教科書ですか。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

平成27年度採択し、平成28年度より使用しております。ただ、道徳だけは、昨年度採択を行ったものです。

◆【伊藤教育委員】

すると平成27年度の採択した教科書から内容は変わっていないということですか。一度採択すると、何年その教科書を使用するのですか。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

基本的には、平成27年度に採択してから内容はかわっておりません。また、採択替えは4年に一度行うとしています。基本的には4年ですが、今回は学習指導要領が改訂し、その移行期間ですので、新たに検定に出す教科書がなかったということです。来年度は、新たな学習指導要領の内容に合わせる形で、教科書が発行されますので、今回の小学校と同様に中学校において採択替えとなります。

◆【伊藤教育委員】

来年度は、中学校で多くの新しい教科書が発行されて替わるということですか。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

はい。来年度は多くの発行者が新しい教科書を出してくることが予想されますので、今年度の小学校と同様にこのような協議を行うこととなります。

◆【議長：山田教育長】

予定では、中学校は来年度1年だけ、この教科書を使うということですね。

◆【伊藤教育委員】

今年、採択したから、また4年使うということではないのですね。今のところ、学校の先生方や児童生徒、保護者さんから、今使用している教科書について文句や苦情、問題点はどこも出ていませんか。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

どこもということは答えられませんが、著しくこれは問題があるという意見はいただいております。また、展示会等においても、そうした意見はいただ

いていないということですので、実績をふまえたとき、このまま教科書を使用していくことがよいのではと協議会で確認されたところです。

◆【伊藤教育委員】

児童生徒を教えている先生方から、今使っている教科書が使いにくいとか、問題があるという意見を聞いたことはないですか。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

具体的な形で聞いたことはありませんが、採択替えをして使用する教科書が変わると、その教科書に慣れるまでに、若干課題を感じることはあると思われまます。ただし、すべて文部科学省の検定を受けていますので、内容としては問題ありません。しかし、それぞれの教員が、教える際のやりにくさを感じていることはあるかもしれませんので、採択替えの際に、それらの意見を集約し、教科書の選定を行っております。

◆【議長：山田教育長】

随分昔になりますますが、発行者の会社が廃業してしまったことで、採択していた発行者の教科書が引き続き使えなくなったことがありました。使用中の教科書が手に入らない状況になったため、採択しなおしたということが過去にはあったようです。その時以外は、4年間をめぐりに使用し、採択替えの際に考えていこうという説明でした。今のところ大きな課題としてはでていないととらえていますので、もう1年現在使用中の教科書を引き続き使うということで、承認いただければ、土岐市としては議決させていただきますが、よろしいでしょうか。

それでは、令和2年度使用中学校用教科用図書については、本年度使用教科用図書と同一のものにすることについて、「全員一致で議決」とさせていただきます。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

次に、来年度から新たに使用する小学校の教科書を採択することについて説明します。このことにつきましては、令和2年度から使用します小学校の教科書の採択につきまして、教科書採択に関わる関係法令及び東濃採択地区協議会規約（p4）、運営方針（p8）に則りまして議決を求めるものであります。小・中学校の教科書採択につきましては、【義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律】第12条により、採択地区を設定し、同法律の第13条により、当該採択地区内の市町村教育委員会は、協議して種目ごとに同一の教科書を採択しなければならないこととなっております。また、採択の権限は各市にありますますが、東濃採択地区協議会で決定された結果を土岐市においても同様

に議決することとなります。

去る7月10日に採択地区である「東濃採択地区協議会」が開催され、協議の末、協議会として各教科1者に選定されました。その1者は資料3p教科用図書選定一覧に記載されているとおりです。協議会の決定を尊重し、土岐市としても協議会で選定したように、採択を議決していただくものです。

協議会で1者の選定に至るまでには、協議会において委任された各教科の研究員による綿密な調査研究がなされ、その内容が協議会の場で報告されました。採択関係資料3/3をご覧ください。そこでは、各教科の教科用図書として文部科学省の検定を通過した教科書全てについて、採択関係資料1/3の10pに示しました調査項目、着眼点などを定めた採択基準をもとに、着眼点を教科の特質にあわせてより具体化し、比較検討がなされています。この採択基準は、県の着眼点をもとに、東濃地区の教員、児童の実態を踏まえ、独自の着眼点を追加して設定しています。この基準を基にした研究結果を採択関係資料3/3にて教科ごとにまとめて載せております。

研究員の報告によれば、全ての教科用図書の比較検討を着眼点に沿って行い、2～3者に絞り込んだうえで、さらに詳細にわたって比較検討を行っています。その比較の結果は、採択関係資料2/3に掲載しております。それでは、協議会において1者の選定に至った理由について、各教科の研究員の報告の概略を説明いたします。採択関係資料2/3をご覧くださいながら、令和2年度使用小中学校用教科用図書選定理由書にてご確認ください。

まずは、国語です。資料1p2pをご覧ください。

◇「読むこと」の領域において、言語活動が4つの学習過程に沿って整理して位置付けられており、考えを形成するための文例や話例が示され、児童が見通しをもち主体的に学習できるよう十分配慮されていること。

◇和紙の教材等が掲載され、ふるさとや地域について考えることができるよう配慮されており、教科書の内容に連動した二次元コードによる学習コンテンツが大変充実していること。

◇単元の導入では、児童が学習の見通しをもてるよう、既習事項や読みの着眼点が分かりやすく示されており、学習の手引きは、対話的な学びの姿のモデルの例示等が示され、きめ細やかであること。

◇学習のポイントを示す「たいせつ」や学んだことを生かす「いかそう」、関連する学習内容や既習事項を示す「本↓マーク」を位置付けており、読み物、言葉、漢字、学び方など、多岐にわたる巻末資料が収録されていること。

これらの点から光村図書出版の教科書が優れていると言えます。

土岐市の研究員からも、東京書籍は非常に丁寧だが、細かく書きすぎて、逆に児童の思考を奪いかねない。児童の実態に応じた学習展開がしづらい。反面、光村図書出版は例示を最後まで書ききらず、児童が参考にしながらも、自分で

考える工夫がされているところがよいとの意見をいただいています。

次に、書写です。資料3 p 4 pをご覧ください。

◇文字を整えて書く工夫がされており、平仮名を言葉の中の一文字として練習できるよう配慮されている。また、身に付けたい力が一目で分かる「たいせつ」が配置され、書き、考え、話し合い、確かめ、定着を図るという学び方ができるよう配慮されていること。

◇学習内容に対応した二次元コードがそれぞれのページに付いており、その場で効率的に読み取り示すことができるよう配慮されていること。

◇①文字の書き方の原理・原則を「考える」、②毛筆で「確かめる」、③硬筆に「生かす」という3段階の流れで効率的に学習を進める工夫がされていること。

◇1年生から手本が毛筆体になっており、3年生の毛筆へのスムーズな移行につなげていること。

これらの点から光村図書出版の教科書が優れていると言えます。

続いて、社会です。資料5 p 6 pをご覧ください。

◇社会的事象の見方や考え方を4種類のマークで示すことにより、思考力・判断力・表現力等の育成を図るよう工夫されており、各学習過程に話し合い活動が適切に位置付けられ、対話的な学びの充実が図られていること。

◇岐阜県や東濃地区の身近な事例が取り上げられ、ふるさとや地域への誇りと愛着を育む内容となっていること。また、デジタル教材を活用することで、学習内容の定着状況を把握する工夫がされていること。

◇単元における単位時間の位置付けが明示され、単元を貫く課題の解決に向けた学習指導と評価が適切に行えるよう配慮されていること。また、他教科等との関連が明示され、児童が自ら関心をもって学べるよう工夫されていること。

◇UD フォントやカラーバリアフリーなどのユニバーサルデザインに配慮し、目次や索引等も、見やすく使いやすいものであること。

これらの点から東京書籍の教科書が優れていると言えます。

土岐市の研究員からも、東京書籍の教科書は、高めたい社会的な見方や考え方が単位時間ごとに位置付けられており、社会の専門でない教員でも視点を明確にして指導しやすい。また、143人分の「社会で生きる人の話」を取り上げ、自らの考えを深めたり、自分の生き方に生かしたりする工夫がされている。参勤交代での土下座や鎖国など、最新の研究の見解が反映されているところもよいとの意見をいただいています。

続いて、地図です。資料7 p 8 pをご覧ください。

◇地図のしくみや使い方について豊富な資料を掲載し、作業的学習を設けて十分に説明していること。写真・絵→絵地図→地図と段階的に示し、大きな絵と

文字で見やすく工夫されており、第3学年からでも活用できるよう十分配慮されていること。

◇故郷や地域への誇りや愛着を育めるよう、東濃地区にも関連のある自動車工場に関わる内容が取り上げられていることや、二次元コードを活用することにより、関連したコンテンツが直接閲覧できるよう工夫されていること。

◇内容の構成に配慮がなされ、まとめのページに学年ごとの目標が明記され、色を塗ることで4年間の活用の成果を積み上げることができ、児童が達成感を得られるよう配慮されていること。

◇地形図は、明るい着色となっており、縮尺や高さ、深さなどの表示が分かりやすいこと。また、色覚特性への配慮がなされており、果樹園や畑、田などの色の下には紋様を入れて見えるようにしていること。

これらの点から帝国書院の教科書が優れていると言えます。

土岐市の研究員からも、新たに地図帳を使うことになる3年生用に地図への導入のページがあり、段階的に使用できるよう工夫されている。また、チャレンジクイズが用意され、子どもたちが楽しみながら地図帳に親しむ工夫がある。また、軽量化も図られているとの意見をいただいています。

協議の中では、社会の教科書とリンクした同じ会社の地図がよいのではという意見もいただきましたが、「地図を学ぶ」という点から作り込まれている帝国書院の地図帳の方が活用できるという結論が出されました。

続いて、算数です。資料9p10pをご覧ください。

◇図・式・言葉を関連付けて説明することで、考え方と計算の仕方をつなげて理解できるよう工夫されていること。中学年ではテープ図と数直線を並べて表記し、学年が進むにつれ、2本の数直線へ段階的に移行するなど、系統的に学ぶよう配慮されていること。

◇単元の「たしかめ」のページだけでなく、単元途中でも「同学年で学習したこと」、「前の学年に戻ることに示し、個の学習を支援していること。

◇思考力・判断力・表現力を問う問題を取り入れたり、巻末補充問題や復習問題を充実させたり、前学年までの既習事項が確認できるまとめを設定したりするなど、児童の理解や習熟の状況に応じて学習が進められるよう配慮されていること。

◇巻頭に単元名と小単元の一覧があり、各単元に関連する前後の学習を記載し、児童が学習のつながりや見通しを自覚できるよう工夫されていること。

これらの点から大日本図書の教科書が優れていると言えます。

土岐市の研究員からも、「算数まなびナビ」で問題解決型の学習の流れを示し、児童が主体的に学習し、対話を通して学びを深める展開になっている。イラストや吹き出しを効果的に使って授業の流れをイメージし、学習のめあてを

設けて、一目で指導のねらいがわかるようにしている。巻末や補充問題に解答を付け、家庭でも学習しやすいとの意見をいただいています。

理科です。資料11p12pをご覧ください。

◇理科の見方・考え方を「理科のミカタ」として具体的な表現で明示しており、学びの深まりの段階が感じられるよう配慮されていること。

◇岐阜県の自然や施設に関する教材が効果的に配置され、地域の自然への愛着が育まれるよう配慮されていること。

◇巻頭には「理科の学び方」として問題解決学習の流れを、巻末には「学習した理科の言葉」の索引や「自由研究」を掲載し、児童がすすんで自学・自習できるよう工夫されていること。

◇大きめのUDフォントが用いられ、ユニバーサルデザインへの配慮がなされていること。また、写真やグラフや図表が多用され、見やすさ、読みやすさへの配慮がなされていること。

これらの点から東京書籍の教科書が優れていると言えます。

土岐市の研究員からも、どの学年、単元にも考察が位置付いており、考えさせたい内容には、考察を2pにわたって位置付けている。理科の学習の進め方や学び方がわかりやすく、丁寧に掲載されており、理科を専門としない若手教員にとって指導の見通しがもてる。巻末に検索や二次元コードがまとめているので、調べ学習や家庭学習で活用しやすくなっているとの意見をいただいています。

生活科です。資料13p14pをご覧ください。

◇身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉えられるよう、絵や吹き出しに例示がされていること。「できるようになったことをふりかえろう」を位置付け、仲間との関わる時必要な習慣や技能の習得を確認する工夫がなされていること。

◇季節ごとに地域の公園で活動したり、地域探検をしたりすることで、四季の変化に気づくよう促し、地域への愛着を深めるよう工夫されていること。また、家庭で保護者と一緒に学べるよう、ICTの活用例が分かりやすく示してあること。

◇教師の発問例、掲示物や板書の例が挿絵で分かりやすく示され、挿絵の児童の姿や吹き出し、表現作品例などで評価規準を示唆しているため、生活科の指導経験の浅い教員でも指導できるよう配慮されていること。

◇上巻の巻末に取り外し可能な「ポケット図鑑」を掲載し、小単元名、手洗いマーク、約束などを教科書の同じ位置に配置し、ホワイトボードの挿絵で学習の流れを示していること。

これらの点から東京書籍の教科書が優れていると言えます。

続いて音楽です。資料15p16pをご覧ください。

◇生活体験と結び付いた学習や、実感を通して演奏技能のこつを理解する学習が設定され、音楽を形づくっている要素を主題として、各領域に渡って貫く題材構成となっており、系統的に学習ができること。

◇お囃子や民謡を真似ながら歌うなどの体験的な学習や、日本音階の旋律作りなど、日本の音楽を系統的に学ぶ工夫がなされていること。また、二次元コードを読み取ることにより、学習を支援するコンテンツを閲覧できること。

◇学習目標や活動内容、学び方が明示され、学習の見通しと評価の視点がもちやすいこと。また、関連のあるページがマークで明示されており、既習内容を振り返りながら学習できること。

◇音符や歌詞の文字のサイズが大きく掲載されたり、解説の部分は無地を基調としたりするなど、見やすさへの配慮がされていること。また、目次は題材ごとに色分けし、同じ色が各ページにも配されるなどの工夫がなされていること。

これらの点から、教育芸術社の教科書が優れていると言えます。

土岐市の研究員からも、言葉によるコミュニケーションに加え、音楽に合わせてコミュニケーションを図る言語活動が位置付いており、身体表現を通して子どもたちの学びが深まるよう工夫されている。地域の祭りや音楽の紹介の中に、岐阜県の郷土芸能が位置付いており、地域に伝わる音楽を調べる視点や方法を示すことで、子どもたちの興味関心を高める工夫がされている。との意見をいただいています。

図画工作です。資料17p18pをご覧ください。

◇学習指導要領に示されている三つの柱を育成するために、5つの分野の題材数に偏りがなくバランスがよいこと。活動中の写真や作品、図が豊富で、児童の思いや工夫を理解できるような配慮もあり、造形的な見方や考え方が働くように配慮されていること。

◇東濃地区で伝統的に実践されている粘土と木版画の題材が大変充実し、地域素材への愛着を育むための工夫が十分図られている。また、ホームページ上の参考情報が閲覧できる配慮もあり、ICTを活用した学習活動の充実のための工夫が図られていること。

◇彫刻刀の種類や彫り方の違いを感じ取り、児童が主体的に選択できる資料や道具の準備や進め方が具体的に示されている。また、地域題材の焼き物について、6年間を通して段階的な指導が行えるよう、配慮されていること。

◇巻末資料は、各学年の題材に関わる材料や用具の基本的な扱い方を丁寧に分かりやすく示されており、児童が自分で参考にする際にも使えるようよく配慮されていること。

これらの点から、日本文教出版の教科書が優れていると言えます。

土岐市の研究員からも、粘土題材が多く、絵、立体、鑑賞のバランスがよい。

応用が可能な題材も多い。見開き題材で見やすく、吹き出しが効果的に配置され、素人でも指導しやすい。との意見をいただいています。

次に家庭科です。資料19p20pをご覧ください。

◇「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」の3ステップで学習を進め、各題材の初めには、「めあて」と生活の見方・考え方の4視点を位置付けている。5・6年の2年間を通した系統性、連続性によく配慮されていること。

◇岐阜県の「くりきんとん」、「朴葉ずし」など、和食や郷土料理、伝統的な民家や和服などを取り上げている。各題材の右上には二次元コードが記載されており、コンテンツを活用して学習を充実させていること。

◇ねらいに沿った終末の自己評価によって、適切に学習のふり返りができること。また、題材の出口で生活への生かし方を考える場の位置付けや複数の課題例を紹介することで実践意欲を高めていること。

◇調理や手縫い等の実習場面での細かい作業手順を写真とイラストで示し、手縫いの写真では、白い布に赤い糸で縫うことで、縫い目が視覚的にも工夫されていること。

これらの点から、開隆堂出版の教科書が優れていると言えます。

土岐市の研究員からも、題材数が多く、5年で学んだことを6年で生かし、繰り返し技能を身に付ける構成になっている。80品の郷土料理など、伝統文化が数多く掲載している。二次元コードにより技能に自信が持てない教員にも事前に動画をみて教材研究に取り組めるよう工夫している。との意見をいただいています。

保健です。資料21p22pをご覧ください。

◇資料を活用したり、学習課題を提示したりして、主体的に学習に取り組めるよう工夫するとともに、終末には学習を振り返り、児童自らの生活に結び付けるようにしていること。

◇健康を守る多様な職業や取組をイラストや写真で紹介したり、デジタルコンテンツを利用したりして児童の理解を助ける工夫がされていること。

◇学習と関連した資料や図や絵、表・グラフ、写真等が豊富に掲載されており、児童が主体的に学び、理解ができるように工夫がされている。また、どの学習も「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」のパターンで構成されており、分かりやすいこと。

◇巻頭に学び方のページが位置付けられており、学習の見通しをもつ工夫がされていること。

これらの点から、東京書籍の教科書が優れていると言えます。

次に英語です。資料23 p 24 pをご覧ください。

◇3単元毎に Check Your Steps のコーナーを設置し、学習内容を確認することができる構成にされていること。また、年度初めに「学び方みいつけた！」のコーナーを設定し、前学年との接続がスムーズにしていること。

◇各 Unit に発展的な活動の Over the Horizon を位置付け、他教科と結びつけて学んだり、世界とつなげてキャリア教育に広げられたりするよう工夫されている。また、ICT を活用して効果的に学習が進められるようデジタル教材の充実に配慮されていること。

◇Small Talk から文字指導までが見開きで配置され、単位時間の学習過程が分かりやすく、柔軟にカリキュラムマネジメントできること。また、別冊 Picture Dictionary により、児童が主体的に家庭学習に取り組む工夫がされていること。

◇フォントに新ユニバーサルデザイン書体、新4線を使用するなど見やすさに配慮されている。また、巻末資料の活動用カードには全てにミシン目を入れるなど、使いやすさにも配慮されていること。

これらの点から、東京書籍の教科書が優れていると言えます。

土岐市の研究員からも、薄くて軽い教科書で、別冊の英単語辞典は、5, 6年通して活用でき、中学生になっても使える。単元の流れが「出会う」→「慣れる」→「コミュニケーション」→「まとめ・振り返り」で構成されており、児童にもわかりやすく、指導もしやすい。巻末にカードが用意されており、コミュニケーション活動の手助けになる。また、教科書の中に二次元コードが多数あり、二次元コードを読み取ると、メトロノームに合わせて単語の音声や歌やチャンツ、重要表現を扱う場面の音声と動画、モデル会話などが見聞きすることができ、家庭学習にも生かせる。との意見をいただいています。

最後に道徳です。資料25 p 26 pをご覧ください。

◇授業の流れに沿って、発問の例が示されており、児童が自分のこととして考えられる問いや、役割演技を通して考える場などの自分を見つめる工夫がされていること。また、教材とコラムを組み合わせるユニットを位置付け、現代的な課題にもじっくりと向き合えるよう工夫していること。

◇岐阜県にゆかりのある杉原千畝の教材を取り上げており、3年生以上の巻末のコラムでは地域の写真や資料を掲載している。教材のページには、二次元コードが配されており、朗読の音声や資料画像、動画等を効果的に活用できるようにしていること。

◇終末には、既習資料や他教科、読書活動、実践等とつなげ、長期休暇前にはコラムを位置付け、調べ学習や家庭での話し合いへの広がりを期待する構成になっていること。

◇第1学年は文節分かち書き、第2学年は2～3文節分かち書きと、読みやす

さに配慮されている。巻末は全学年道徳の学びで大切にしたいことや日本の伝統などが掲載されていること。

これらの点から、光村図書出版の教科書が優れていると言えます。

この道徳の教科書は前回の採択から2年使用したところで、教える教員には慣れてきたところです。しかし、今回は教科書発行者を替えることとなります。学校の負担は大丈夫かとの意見もいただきましたが、現在の教科書を使用してみて感じていることや課題について十分交流したうえで、替えることを決めております。

簡単ですが、説明は以上でございます。

採択関係資料1／3の2pの議決書にありますように、東濃採択地区協議会が決定した事項を尊重した議決をどうぞよろしくお願いいたします。

◆【議長：山田教育長】

それでは、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。本来ならば種目ごとに議決をすることが本意ではありますが、全体一括での採決を行いますので、どこからでも結構ですので、質問やご意見をお願いします。

◆【大橋教育委員】

東濃採択地区協議会に参加いたしました。本当は各市で選べる教科書けれども、東濃地区でやろうということになり、最初に思ったのは、研究項目があり、その研究を進める専門の先生方がすごく長い時間をかけて、例えば道徳や英語などは7者や8者のなかから選ばれるということ、それらの教科書を全部読んでやられること、専門の先生方がやられることをすごいことだと思って聞いていました。項目ごとに調査研究されており、東濃地区全体でやることに間違いはないと思いました。今、長谷川次長が簡単に説明されましたが、実際に調査研究された先生方はもっと細かく説明をされており、午前午後の日をかけてすべての教科の話の話を聞いてきました。感想としては、専門の先生方が時間をかけてこれだけの調査研究をやられたこと、自分の学校の業務以外にやっていますすごいと思いましたし、的確に内容を捉えてやってみえることに対しても自分はある種の感動まで受けました。まして、内容的にはICTの活用や二次元コードを読み取ってこんな新たなことができるということも紹介され、学校訪問に行くと新しい先生方は読み取ったものをすぐに映像で映してやるなど、それぞれ自分で工夫してやっている。われわれ、昔授業を受けた者にはびっくりするような内容がいっぱい出てきている。とっても素晴らしいと感じつつ、自分が昔やったことと比較しながら、こんなに細かくやってもらったら自分ももっと頭がよくなったかなという思いで聞きました。自分は嫌いな科目と好きな科目がはっきりしていたけれど、今は好き嫌い関係なく全部の教科をやると

いう先生方の熱意が伝わってきましたので、とてもよかったと思いました。1日はとても大変でしたが、半分は楽しく選定してきました。感想です。

◆【議長：山田教育長】

ありがとうございました。お疲れ様でした。大橋委員さんには、採択地区協議会にて全種目承認いただいたという立場で、お話いただきました。

◆【加藤教育委員】

確認ですけれども、英語は新たに入ってきましたが、今までの教科書会社と替わったのは道徳だけでしょうか。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

新たに入った英語以外には、書写、保健、道徳が替わりました。書写は東京書籍が光村図書に、保健は学研教育みらいが東京書籍に、道徳は光文書院が光村図書出版に替わりました。それ以外は同じです。

◆【加藤教育委員】

替わるなりの理由があったということですね。

◆【伊藤教育委員】

質問ですが、私がやったときは、教科書の重さが書いてありました。教科書の紙を見ると国語は薄いですが、社会とか重く感じます。生活とかは教科書は薄いのに、重く感じます。紙を見ると、分厚く重い。いくら小学校5年6年といっても、できれば軽い方がよいと思います。国語は紙が薄くて、他の教科が厚いのは何か理由があるのでしょうか。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

どうしても社会などは、教科書にある写真や資料をもとに考えますし、理科なども掲載する写真がとても多いので、写真を印刷するとなると薄い紙では裏に透過してしまうので、写真等が少なく、文字が多い国語などは薄い紙を活用しているものと思います。

◆【伊藤教育委員】

社会などは、教科書としては薄いのに、見た目と違う重さを感じます。国語は持ったとき、軽いです。紙の質が違うからでしょうが、国語ぐらいのレベルのものではなんでだめなのだろうと思います。どの教科書会社も国語以外はちょっと分厚いような感じがします。生活や道徳などは、もっと薄い紙を使ってもらおうと助かるのにとおもいます。国語も4年生までは分冊になっているのに、

5年生になると一気に分厚くなり、二冊分の重さになってしまう。教科書会社をお願いして軽くしてもらえないでしょうか。5、6年生になるといろいろなものも増え、一日の科目数も増えるので、正直この国語の教科書の重さはかわいそうだと思います。なぜ、5、6年生だけ急に一冊になってしまうのだらうと思いました。教科書を持ったとき、表紙が立派であまりにも重いので、ランドセルにこれらが何冊も入ると相当に重いと感じるだろう。一生懸命つくってくださったとてもいい教科書なのですが、とても重い感じがします。どうしてもカラーじゃないといけないのでしょうか。ここまでカラーがいるのでしょうか。社会などは写真が細かいので必要なのかもしれませんが、例えば生活などは、もっと軽くて薄い紙でいいのではないかと思います。私たちが昔見ていた教科書と比べるとものすごくカラー化が進んでいて、無駄にカラーが多いのではないのでしょうか。カラーだらけで、どこがポイントなのかわからないほど、カラーが多いと思います。そのために教科書が重くなっている。カラーが多く、写真が多くなっているけれど、中身が少なくなっているのではないのでしょうか。中身がわずかで文章が少ないので、子どもたちが理解するのが大変で、子どもたちは塾へ行くことになるのではないかと思います。カラーが多いことで、紙質をよくすることになり重くなっている。大変だろうなと思います。

国語で自分が一番気になることは、ここにある選定基準とは外れますが、いつも気にしているのが、どういうテーマの題材を扱っているかということ。それが教科書の生命線だと思います。どんな物語やどんな人の論文が扱われているかが、国語を支えてきているわけですから、そうした内容を国語独自の選定基準にさせていただきたいと思います。資質能力の3つの柱のバランスがとれているかなどもあると思いますが、扱う題材が、戦争に関するもの、科学的なもの、物語とわけてあり、そのなかでどういうテーマを選んでいるかを、一覧表にするなどを指示し、それも参考にした選定ができたらいつとも国語については思います。研究していくと細かな点で比較していくことになりませんが、一番大事なのは先生が教材をどう解釈して教えていくかであり、材料が悪ければ、よいことを教えようとしてもできないし、偏った方向になってしまうので、国語のなかで、特に物語などの題材の選定については気を遣っていただきたいし、ここにどういう視点が入るかがもっとも大事だと思います。それが国語力につながっていくことでもあります。きれいでいい文章とか論理的な文章を読み込む力をつけるのによい材料の文章が欲しいと思いますので、ぜひ、そうした視点を入れた国語の教科書選定を考えてもらいたいと思います。

◆【議長：山田教育長】

今の件につきましては、これからの採択地区協議会、研究会への土岐市からの意見ということで報告していただくようお願いいたします。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

国語の高学年の教科書がなぜ厚いのかにつきましては、採択地区協議会で話題になり、分冊にしてもよいのではということでしたが、研究員からは、過去に学習したことを振り返りながら学習することを考えると、1年分が1冊の方がよいということでした。社会は、分野によって分冊にして配慮しています。

また、委員さんご指摘の内容が少ない部分につきましては、二次元コードを導入し、今まで具体的な資料や文字で示していたものを、二次元コードを活用して情報サイトに入り、自分で情報を取得する方向にかわってきています。したがって、教科書の内容は、精査されたものになってきているだろうと思います。

◆【伊藤教育委員】

国語の光村図書も東京書籍もどちらも5年生から教科書が分冊でなく、1冊になっていますが、他の教科書会社も同様でしょうか。

◆【議長：山田教育長】

この2者は、5、6年生が1冊ですが、教育出版、学校図書は分冊です。分冊の考え方には多少温度差があります。

◆【伊藤教育委員】

この国語の教科書は重いのではないですか。

◆【齋木教育委員】

517gで光村図書も東京書籍も一緒です。

◆【議長：山田教育長】

分冊にするとコストがかかることになると思われます。これからの教科書の方向としては、タブレットをうまく利用して、スリムにしていくという方向になっていき、今後、教科書の構成もかわっていくと思います。

重い教科書への対応については、土岐市議会でも質問があり、土岐市としても教科書を学校に置いていく時の約束事を各学校で統一しました。教科書も軽くなることもありませんので、学校で対応していきます。原則、家に持って帰って、勉強してきて欲しいという気持ちでいますが。

◆【大橋教育委員】

昔は教科書を持って帰っていましたが、現在、外国ではまず持って帰らない。100%教科書を学校に置いておいて、1冊か2冊かの勉強したいものだけしか持って帰らないので、鞆もぺらぺらの状態です。日本もこれからは、宿題が

でたものだけとか、勉強する2冊か3冊だけ持って帰るとなっていくと思います。

◆【伊藤教育委員】

昔は、教科書を持って帰る重さだけ勉強するという意識でいましたが、だんだん教科書が立派になってきて重くなってしまった。

◆【大橋教育委員】

先日土岐津中の孫の鞆の重さを量ったら、12kgもありました。

◆【伊藤教育委員】

重いのは、ちょっとかわいそうに思います。

◆【議長：山田教育長】

教科書の体裁についての条件も緩和されています。研究員もご指摘の内容についても吟味して選定していますので、ご理解ください。

◆【齋木教育委員】

この採択が大変なことは重々承知しています。教科書は水に濡れたときにくっついてしまわないようにコーティングがされています。破れないようにするためにも、よい質の紙を使っています。また、カラーと白黒では全然違うので、辞書買わなくても、教科書が辞書かわりになって使うことになるのではと思います。

東京書籍の理科というものは、同じもの1つしか作っていませんか。地域によって、関東・関西にわけるといったことはありませんか。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

教科書は1つです。教師用の指導書には、地域色の出た冊子が差し込まれることはありますが、基本的には同じものです。

◆【齋木教育委員】

岐阜県の素材が出ているという話だったが、全国でも岐阜県のもので学習するということですね。

◆【加藤教育委員】

全教科、採択されている会社が小学校と中学校で同じになっていますが、英語は東京書籍が選定され、中学校と異なりますが、次年度の中学校採択での変更を見越したうえでの東京書籍ということでしょうか。

◆【事務局説明員：長谷川教育次長】

基本的に小学校と中学校をつなげて考えてはならず、中学校では中学校の採択基準に基づき、その着眼点をもとに調査研究して選定しますので、それがたまたま小学校と中学校が同じになったということです。ですから、今回の小学校の英語は中学校の教科書をもとにしてはならず、小学校の採択基準に基づき、選定しています。

◆【議長：山田教育長】

いろいろご意見をいただきありがとうございました。

一つだけ確認をさせていただきます。タブレットの話ですが、大橋委員さんには採択地区協議会で聞いていただいておりますが、原則今回の検定にかかわるタブレットや二次元コードの記載、それに伴う内容につきましては、教科書会社により大きな差があるため、採択基準にはありますが、そのみで判断しているわけではありません。道徳での二次元コードの活用例ではありませんが、資料は担任が読むもので、家庭でタブレットを使って事前に聞いてきて、先生が授業で、それ以上に上手に読むという活用ができるとよいと思います。今後は、教科書をいか使って授業をするかが大事になってくるのではないかと思います。

それでは、日程第3ですが、議第14号、令和2年度使用小中学校用教科用図書の小学校についてですが、（議決書）の1、令和元年度教科用図書東濃採択地区協議会において決定した採択の案の通り、土岐市として可決したいと思います。委員の皆様、ご意見はございませんでしょうか。

<採決>

それではこのことについて「全員一致で議決」とさせていただきます。

それでは、日程第3、議第14号につきましては、東濃採択地区協議会で議決されました1、2について「東濃採択地区協議会において採択した原案通りのものとする」ことを、土岐市教育委員会においても議決いただきましたことを確認させていただきます。

どうもありがとうございました。